

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 26 年 7 月 24 日 (2014.7.24)

【公表番号】特表 2011-521635 (P2011-521635A)

【公表日】平成 23 年 7 月 28 日 (2011.7.28)

【年通号数】公開・登録公報 2011-030

【出願番号】特願 2011-511111 (P2011-511111)

【国際特許分類】

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

【F I】

C 1 2 Q 1/68 A

C 1 2 N 15/00 A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 26 年 6 月 3 日 (2014.6.3)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(a) 染色体異常に関連するヌクレオチド配列を検出する第一分子プローブ、

(b) 二本鎖ヌクレオチド配列を変性させるための少なくとも一種の極性非プロトン溶媒、及び

(c) ハイブリダイゼーション溶液

を含有するハイブリダイゼーション組成物であって、

前記極性非プロトン溶媒は環状基本構造を有し、前記極性非プロトン溶媒はラクトン、スルホン、サルファイト、及び / 又はカーボネートである

ハイブリダイゼーション組成物。

【請求項 2】

染色体異常が、異数性、潜在的切断点、挿入、逆位、欠失、複製、遺伝子増幅、再編成、又は転位置である請求項 1 に記載のハイブリダイゼーション組成物。

【請求項 3】

第一分子プローブが、A L K、B C L 2、B C L 3、B C L 6、B C L 10、B C L 12、B C R、C C N D 1、E 2 A、E G F R、E T V 6、F I P 1 L 1、H E R 2、I G H、I G K、I G L、M A L T 1、M L L (A L L - 1、H T R X 1、H R X)、M Y C (c - M y c)、P A X 5、P D G F R A、P D G F R B、S I L、T C F 3 (E 2 A、I T F 1)、T C L 1 A、T C R A D、T C R B、T C R G、テロメア、T L X 1、T L X 3 (H O X 1 1 L 2、R N X)、又は T O P 2 A を検出する請求項 1 又は 2 に記載のハイブリダイゼーション組成物。

【請求項 4】

第一分子プローブが、t (1 ; 14) (q 34 ; q 11)、t (1 ; 19) (q 23 ; p 13)、t (2 ; 5)、t (2 ; 18) (q 12 ; q 21)、t (2 ; 8)、t (4 ; 11)、t (4 ; 11) (q 21 ; q 23)、t (6 ; 11) (q 27 ; q 23)、t (7 ; 22) (p 22 ; q 12)、t (8 ; 14)、t (8 ; 22)、t (9 ; 11) (p 22 ; q 23)、t (9 ; 22) (q 34 ; q 11)、t (10 ; 14) (q 24 ; q 11)、t (11 ; 14)、t (11 ; 14) (p 13 ; q 11)、t (11 ; 19) (q

2 3 ; p 1 3 )、t ( 1 4 ; 1 8 ) ( q 2 3 ; q 2 1 )、t ( 1 4 ; 1 8 )、t ( 1 8 ; 2 2 ) ( q 2 1 ; q 1 1 )、及び t ( 2 1 ; 2 2 ) ( q 2 2 ; q 1 2 ) から選択される染色体異常を検出する請求項 1 又は 2 に記載のハイブリダイゼーション組成物。

【請求項 5】

第二分子プローブを更に含有し、該第二分子プローブが第一分子プローブで検出されるものと別の又は同じ染色体異常に関連するヌクレオチド配列を検出するためのものであるか、又は第二分子プローブが正常参照ゲノムを検出する参照プローブである請求項 1 から 4 の何れか一項に記載のハイブリダイゼーション組成物。

【請求項 6】

第一分子プローブ及び / 又は第二分子プローブが、一又は複数の潜在的切断点に隣接し又はその内部の配列を検出する請求項 1 から 5 の何れか一項に記載のハイブリダイゼーション組成物。

【請求項 7】

分子プローブが標識を更に含む請求項 1 から 6 の何れか一項に記載のハイブリダイゼーション組成物。

【請求項 8】

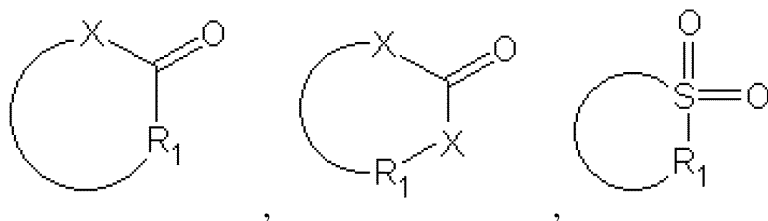
ハイブリダイゼーション組成物中の極性非プロトン溶媒の濃度が、1 ( v / v ) % から 9 5 ( v / v ) % の範囲であるか、又は 1 0 ( v / v ) % から 2 0 ( v / v ) % の範囲である請求項 1 から 7 の何れか一項に記載のハイブリダイゼーション組成物。

【請求項 9】

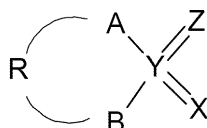
極性非プロトン溶媒が、1 7 . 7 M P a <sup>1 / 2</sup> から 2 2 . 0 M P a <sup>1 / 2</sup> の範囲の分散溶解度パラメータ、1 3 M P a <sup>1 / 2</sup> から 2 3 M P a <sup>1 / 2</sup> の範囲の極性溶解度パラメータ及び 3 M P a <sup>1 / 2</sup> から 1 3 M P a <sup>1 / 2</sup> の範囲の水素結合溶解度パラメータを有する請求項 1 から 8 の何れか一項に記載のハイブリダイゼーション組成物。

【請求項 1 0】

極性非プロトン溶媒が、



(ここで、X が O であり、R<sub>1</sub> がアルキルジイルである)、及び



(ここで、X は存在せず、

Z はO又はSから選択され、

A 及び B は独立して O 又は S 又はアルキルジイルの一部であり、

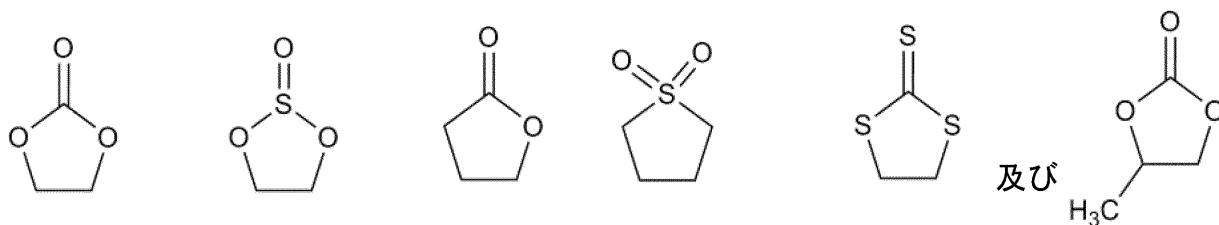
R はアルキルジイルであり、

Y は S 又は C である )

から選択される請求項 1 から 9 の何れか一項に記載のハイブリダイゼーション組成物。

【請求項 1 1】

極性非プロトン溶媒が



からなる群から選択される請求項 1 から 1 0 の何れか一項に記載のハイブリダイゼーション組成物。

【請求項 1 2】

少なくとも一種の極性非プロトン溶媒、デキストラン硫酸及び緩衝剤を含有する請求項 1 から 1 1 の何れか一項に記載のハイブリダイゼーション組成物。

【請求項 1 3】

1 5 ( v / v ) % の少なくとも一種の極性非プロトン溶媒、2 0 ( w / v ) % のデキストラン硫酸、6 0 0 m M の塩化ナトリウム、及び 1 0 m M のクエン酸バッファー ( p H 6 . 2 ) を含有する請求項 1 から 1 2 の何れか一項に記載のハイブリダイゼーション組成物。

【請求項 1 4】

請求項 1 から 1 3 の何れか一項に記載のハイブリダイゼーション組成物を含む、インサイツハイブリダイゼーション用キット。

【請求項 1 5】

少なくとも一の分子プローブを検出し、染色体 D N A 中における染色体異常の存在を決定するインサイツハイブリダイゼーション方法において、

- 染色体 D N A 中の標的にハイブリダイズする少なくとも一の分子プローブを提供し、
- 染色体 D N A を提供し、
- 二本鎖ヌクレオチド配列を変性させるための、少なくとも一種の極性非プロトン溶媒を含有するハイブリダイゼーション組成物を提供し、
- 分子プローブ、染色体 D N A 及びハイブリダイゼーション組成物を、標的に分子プローブをハイブリダイズさせるために少なくとも十分な時間の間、組合わせ、及び
- 標的を検出する

ことを含む方法であって、

前記極性非プロトン溶媒は環状基本構造を有し、前記極性非プロトン溶媒はラクトン、スルホン、サルファイト、及び / 又はカーボネートである、方法。

【請求項 1 6】

前記ハイブリダイゼーション組成物が少なくとも一の分子プローブを含有する、請求項 1 5 に記載の方法。

【請求項 1 7】

前記ハイブリダイゼーション組成物が請求項 1 から 1 3 の何れか一項に定義のものである、請求項 1 6 に記載の方法。

【請求項 1 8】

ハイブリダイゼーション工程が 8 時間未満、又は 1 時間未満、又は 3 0 分未満を要する請求項 1 5 から 1 7 の何れか一項に記載の方法。

【請求項 1 9】

染色体異常に関連する先天性遺伝子疾患、癌、又は感染の診断を補助する方法であって、

- 患者からの組織試料を提供し、ここで、組織試料は核酸配列を含み、及び
  - 請求項 1 5 から 1 8 の何れか一項に記載の方法に従って、染色体異常が核酸配列中に存在するかどうかを決定すること
- を含む、方法。

【請求項 2 0】

請求項 1 から 1 3 の何れか一項に記載のハイブリダイゼーション組成物の、染色体異常に関連するヌクレオチド配列を検出するためのハイブリダイゼーションアッセイにおける使用であって、前記ハイブリダイゼーション組成物は、1 ( v / v ) % から 9 5 ( v / v ) % の少なくとも一種の極性非プロトン溶媒を含有する、使用。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 9

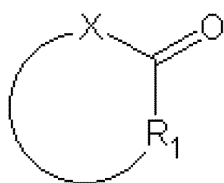
【訂正方法】変更

【訂正の内容】

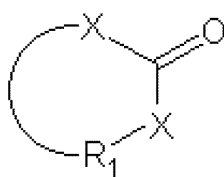
【0 0 2 9】

本発明の一態様によれば、本発明において使用される適切な極性非プロトン溶媒は環状化合物である。環状化合物は環状基本構造を有する。例にはここに開示された環状化合物を含む。他の実施態様では、極性非プロトン溶媒は以下の式 1 - 4 から選択されうる：

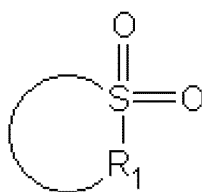
式 1



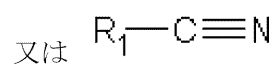
式 2



式 3



式 4



ここで、X は O であり、R 1 はアルキルジイルである。